

報告書の作成にあたって

(O D A 調査派遣の経緯)

参議院は、参議院改革協議会（座長：青木幹雄議員（当時））報告書（平成 15 年 7 月 28 日）の提言「 O D A 経費の効率的運用に資するため、新たに O D A に関する専門の調査団を派遣すること」等に基づき、平成 16 年度から O D A 調査のための議員派遣を行っている。初年度の 16 年度は 3 班を派遣し、中国地域（中国・フィリピン）、東南アジア地域（タイ・インドネシア）、南米地域（メキシコ・ブラジル）の 3 地域で調査を行った。続く 17 年度は 3 班を派遣し、アフリカ・中東地域（エジプト・タンザニア）、中国・東南アジア地域（ベトナム・カンボジア）、南西アジア地域（インド）の 3 地域で調査を行った。なお、第 164 回国会には、政府開発援助等に関する特別委員会が設置され、17 年度 O D A 調査の各班からの報告及び意見交換が行われた。

18 年度の O D A 派遣については、平成 18 年 6 月 9 日の議院運営委員会において、次の枠組みで行うことが決定された。

(O D A 調査派遣の枠組)

派遣の目的については、参議院改革の一環として、 O D A 経費の効率的運用に資するため、平成 16、17 年度に引き続き実施するとされた。

派遣議員団については、4 班 20 名程度を派遣することとし、会派の割当として、第 1 班 6 名（自民 3、民主 2、公明 1）、第 2 班 5 名（自民 2、民主 2、共産 1）、第 3 班 6 名（自民 2、民主 2、公明 1、社民 1）、第 4 班 3 名（自民 2、民主 1）とした。

派遣地域については、過去の O D A 供与実績等を勘案し、アジア地域諸国を重視して今年度の重点調査対象地域を選定した結果、北東アジア地域、東南アジア地域、中央アジア地域、アフリカ地域の 4 地域を派遣候補地とした。なお、具体的な視察事業等については派遣団において決定することとし、派遣期間については、おおむね 10 日程度とした。

最後に、派遣報告書については、過去の取扱いと同様に、関係委員会等における国政審議のために活用されるよう全議員に配付するとともに、関係諸機関等に送付し、また、本院ホームページ等を通じて、広く一般に公表することとした。

(派遣の実施)

各会派から推薦を受けた参加議員は、それぞれの班ごとに打合会を開催し、まず団長の決定を行った後、それぞれ数回の協議を経て派遣期間及び視察対象事業の決定を行った。また、外務省並びに国際協力銀行（ J B I C ）、独立行政法人国際協力機構（ J I C A ）等から概況説明の聴取及び調査のための事情聴取を行うなど、国内における事前調査を行った。

各派遣団のODA調査は、第1班（モンゴル、中国）が8月6日（日）から11日（金）までの5泊6日、第2班（タイ、インドネシア、シンガポール）が8月17日（木）から25日（金）までの8泊9日、第3班（ウズベキスタン、カザフスタン）が8月16日（水）から25日（金）までの9泊10日、第4班（ケニア、セネガル）が7月18日（火）から28日（金）までの10泊11日で、それぞれ実施された。なお、詳細な派遣日程については、本報告書の各派遣団の調査報告を参照されたい。

さらに、帰国後においても補足的な調査を行い、報告書作成のための作業を行ったところである。

（調査報告書の位置付けと内容）

本報告書は4地域に派遣された議員団の調査結果を1冊に取りまとめたものである。

構成は、各派遣団に1章を割り当て、訪問した国別に調査の概要を記述している。なお、各派遣団の記述の文責は、各派遣団が負っていることを明らかにしておきたい。また、報告書に記述した問題点の指摘等については、努めて参加した議員の総意となるよう表現を工夫した。

（最後に）

参議院改革協議会報告書の趣旨を踏まえ、参議院は、第3回目のODA調査派遣を行った。近年ODA予算は、厳しい財政事情の中で減少傾向にあるが、それでも平成18年度一般会計で7,597億円の予算が計上されている。この巨額の財政支出による政府開発援助が、より一層効率的、効果的に行われるために、本報告書が昨年度の報告書と同様に、国政審議の場を始めとする様々な機会でも、議員各位の参考として戴くことを切望するものである。

最後になったが、今回のODA調査派遣の実施に当たっても、事前調査及び現地調査で、内外の関係機関等の方々には大変なご協力を得た。ここに改めて感謝の意を表したい。

平成18年10月記

参議院政府開発援助調査派遣団

第1班（モンゴル、中国）	団長	小泉 昭 男
第2班（タイ、インドネシア、シンガポール）	団長	鶴 保 庸 介
第3班（ウズベキスタン、カザフスタン）	団長	阿 部 正 俊
第4班（ケニア、セネガル）	団長	田 村 公 平